

若者の海外旅行調査

21211040 植野雄斗 21211077 折笠美貴
21211101 川上健治 21211310 松下亜樹

目的：

今後日本が経済的により成長していくためには、現在の 20 代の若者が一層海外で活躍できるようになることが必要である。そのための手段の一つとして若者の海外旅行の実施があるろう。しかし、実際には若者の海外旅行数が減少している。

そこで若者の海外旅行数の増加をどのようなことが阻止しているのか調べ、増加させるための改善方法を提案する。

方法：

はじめに、海外旅行経験者と未経験者の意識について調べるためにアンケート調査を実施した。調査項目としては、経験者には「予想以上にお金がかかった」、未経験者には「パスポート取得の手間」、共通項目として「言葉の壁」「文化の違い」などからなっている。データ数として経験者 45 名、未経験者 50 名から収集できた。

分析の結果、阻害している要因は共通して「言葉の壁」と「文化の違い」への不安であることがわかった。この二つの項目について比較するために、グラフ化で比べ、疎外している要因の軽減などの問題を改善させるためにはどうしたらよいか検討した。

検討の結果、「言葉の壁」に対しては「翻訳アプリの普及」、「文化の違い」に対しては「ツアーガイドの教育」などを提案する。これら二つは、日本全体での取り組みが必要不可欠な事業である。そのほかに海外旅行に行く者の準備として「よく下調べをする」ということを提案したい。

結論：

若者がグローバルに活躍できるようになるためにも、若者の海外旅行離れというものは、もっと日本全体で改善策を練り取り組む必要のあるものがある。海外旅行離れの原因は複雑なものではない。「言葉の壁」と「文化の違い」については様々な改善方法がある。私たちが提案したほかにも多く挙げることができるであろう。いろいろな改善策の結果、多くの若者へ興味を持たせることができれば海外旅行数も増え、日本へよい影響を齎してくれるのではないだろうか。その場合でも、訪れる場の文化等を事前によく調べることで、旅行先で起こりうるちょっとしたトラブルを未然に防ぐことができるのではないか。